

2023年度 日本工学院専門学校											
放送芸術科											
ワークショップ1											
対象	1 年次	開講期	前期	区分	選択	種別	講義	時間数	60	単位	4
担当教員	佐藤博昭			実務経験	有	職種					
担当教員紹介											
現職：映像作家 「ブルースんどれい」ほか											
授業概要											
映像記録技術の発生から様々なメディアへの派生を踏まえ、表現方法の変遷をたどりながら進行する。選ばれた撮影対象を映像表現として構成する方法を比較し、さらに作品の発信形態や目的を探り、社会との関係を考察する力を身につける。可能な限り映像作品の試写を行い、各回で具体的なテーマを設定し授業を進める。参照する作品は劇場公開された「映画」に限らない。授業を通じて、映像の歴史と映像表現の多様さを理解し、映像の読解力を身につける。											
到達目標											
1. 映画を発明したのは誰なのか？ この疑問に答えられるようになる。また、映画という記録技術がなぜ複数の地域で多発的に現れたのか？ この疑問を深めることになる。2. 今日のデジタル映像につながる電子映像の発明を知り、その展開の多様性を理解できるようになる。それらをレポートにまとめることにより、映像に関する知識を定着する方法に出会う。											
授業方法											
各回の授業概要を示したペーパーを配布する。各回のテーマを説明し、参考視聴作品を見る。各回の授業についてコメントペーパーをまとめて提出する。											
成績評価方法											
学期末レポートまたは試験 80％ 平常点 20％ 出席は100％を前提とする。各回のコメントペーパーは授業参加度としてプラス評価する場合がある。											
履修上の注意											
映像表現と歴史・社会との繋がりに重点を置くため、事前に、少なくとも映像文化に対する興味を自ら喚起しておくこと。授業中の私語や受講態度には厳しく対応する。理由のない遅刻・欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は学期末試験を受験することができない。											
教科書教材											
特に指定をしない。毎回の授業のテーマ・内容・作品解説などを配布する。											
回数	授業計画										
第1回	授業ガイダンス 進行計画 評価方法など 短編映画の展開 学生作品を中心に世界の短編劇映画を観る。										
第2回	ワンシーン・ワンカットの映像表現について解説する。 短編映画の魅力 写真の歴史 写真（静止画）を使った動画作品を観る。										
第3回	映画は誰が発明したのか？ 映画前史から映画の発明までを解説する。 初期映画に現れる編集という概念と映画文法の成立過程を解説する。										
第4回	その頃日本では？ 映画で初めて記録された日本はどのような姿だったかを知る。										
第5回	社会問題を扱った海外の短編劇映画 移民、マスメディア、介護など様々な問題を扱った短編映像を観る。										

2023年度 日本工学院専門学校	
放送芸術科	
ワークショップ1	
第6回	社会問題を扱った日本の短編劇映画 過疎化・高齢化、マスメディア、介護など様々な問題を扱った短編映像を観る。
第7回	試験対策授業
第8回	定期試験